

いわて防災学教室

災害から学び、災害に備える



防災力強化に向けた災害図上訓練のススメ(その2)

岩手大学地域防災研究センター特任助教

柳川 竜一

前回は、災害時の想像力を養う3つの訓練を紹介したが、引き続き災害時の対応力を鍛える訓練について紹介したい。

図上検討(グループワーキング)は、様々な立場の防災担当者が集まり、提示される被害推定結果や検討テーマに対し他機関との関連性を意識した具体的な対応方法について議論・発表し合う訓練である。関係機関との相互理解を深めることができるとともに、分析能力・発表能力を鍛えることができる。

MM(マップマヌーバー)は、総合防災訓練や大がかりなイベント等での各登場人物の行動を時系列で地図上に再現する。イベントの予定内容を照らし合わせながら地図上に配置したそれぞれの駒を移動させ、予定内容に問題ないかを確認したり課題の抽出と対応策を議論する。参加者それぞれの役割に応じた行動確認と全体像を皆がイメージアップできるとともに、時間を追うことで明らかになる配置の偏りや抜け・漏れといった時系列での課題抽出にも役立てることができる。

そして、ロールプレイング図上訓練は、コントローラ(状況付与係、いわばゲームの神様)が実際の災害に近い状況シナリオの作成と状況付与を行い、プレイヤー(訓練するメンバー)は状況付与に基づく意思決定や役割行動の検証を行う。プレイヤーは訓練内容のシナリオを知らされていないので、逐次飛び込んでくる情報をその都度整理・分析し、状況判断を行ったうえでなすべき行動を自ら判断し、関係機関へ指示や報告を行うという一連の動きを訓練する。コントローラは各関係機関の事情や相互の動き、災害の状況を十分に理解したうえでシナリオを

作成する必要があるため、準備・実施にあたっては今回紹介した訓練手法のなかで最も労力とノウハウが必要になる。だが、プレイヤーにとっても、限られた時間の中で何をなすべきか実感する訓練だと言えるだろう。

今回紹介した図上訓練以外にも、様々な研究者や団体が新たな図上訓練プログラムを開発している。ユーザーは目的に応じた訓練を選択実施することで実際の災害対応をスムーズに進めることが期待されるため、積極的に活用して頂きたい。

図上訓練は実働訓練・実技訓練と比べて簡便にできる訓練手法として有効だと紹介した。だが、図上訓練のみをすれば他が不要であると主張するつもりはなく、メリットやデメリットを把握して総合的な訓練メニューの開発と実施が一番良いことは言うまでも無い。たとえば、地域住民自らが周囲を歩き写真を撮ることで地域の情報を得て、DIGで災害に対する脆弱性を知るとともに災害対応を議論する。役所や消防、警察との連携が必要となる事案については、グループワーキングで関係機関の立場を理解するとともに相互協力に向けた議論を行う。あわせて、近くの集会場へ避難する実働訓練を実施して明らかになった問題点をさらに議論して対応プログラムを改善するといった具合だ。なお、「問題点が明らかになる訓練」を心掛け目標を設定すること。「うまくいった訓練」からは満足感が得られず、改善する思考が停止してしまう恐れがあるからだ。そして、「訓練で出来なかったことは実際の現場で出来るはずはない」、その事を肝に銘じて訓練に臨んで頂きたい。